

Le Petit Prince 星の王子さま



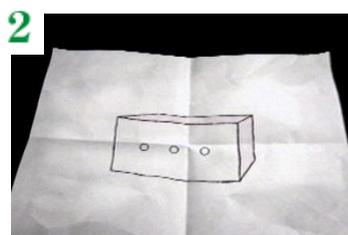
—S'il vous plaît... dessine-moi un mouton!
—Hein !
—Dessine-moi un mouton...
J'ai sauté sur mes pieds comme si j'avais été frappé par la foudre. J'ai bien frotté mes yeux. J'ai bien regardé. Et j'ai vu un petit bonhomme tout à fait extraordinaire qui me considérait gravement.

「ねえ、ヒツジの絵を描いて」パイロットである「ぼく」が不時着した砂漠の真ん中で出会ったのはヒツジの絵を欲しがると小さな「王子さま」でした。一緒に過ごすうちに「ぼく」は「王子さま」が小さな星からやってきたことや「バラの花」の言葉に心を傷つけられて自分の星をあとにしたことなどを知るようになります。そして、地球で出会った「キツネ」がくれた「秘密の贈り物」のことも。次第に心を通わせていく「ぼく」と「王子さま」。しかし、別れのときが訪れて...

投影時間 27分 対象 小学校低学年～一般
登場人物 星の王子さま、パイロット、バラ、キツネ、ヘビ、他
素材 スライド/160枚 VTR/10分



1 パイロットであるぼくは、砂漠に不時着し、そこで、不思議な男の子と出会います。「ねえ、ヒツジの絵を描いて」それが、王子さまでした。「一体...キミ...こんなところで何してるんだい？」



2 「ヒツジの絵を描いて」と繰り返す王子さまに、ぼくはしかたなくヒツジを描いてあげました。「そうじゃないってば...」と否定され、投げやりになって描いた箱。それを見た王子さまは叫びます。「こんなヒツジが欲しかったんだ」



3 誰もが子供の頃は見えていた、箱の中のヒツジ。王子さまに出会って、少しずつ、ぼくは子供の頃の感性を取り戻していくのです。



4 王子さまは、宇宙にあるとても小さな星から、たった一人で地球にやってきました。「ボクの星には、膝くらいの高さの火山が三つあってね。ちゃんと手入れをしていたよ」



5 そしてある日、王子さまは見たことの無い芽を見つけました。「とっても嬉しかったんだ。だって、本当にきれいなバラだったんだもの。だけど...」わがままなバラに、どう接したらいいかわからなくなり、王子さまは旅に出るのです。



6 いろいろな星をめぐり、王子さまは地球にやってきました。そこで初めて出会ったのがヘビでした。ヘビは王子さまに「自分の星が恋しくてたまらなくなったら、助けてやるよ」と約束するのです。



7 地球のあちらこちらを旅しながら、王子さまはたくさん咲いているバラを見つけ、ショックを受けます。そんな時に会ったのがキツネでした。悲しむ王子さまにキツネは「本当に大切なことは目に見えない」と教えてくれました。



8 バラが特別な存在だったことに気づいた王子さまは、自分の星に帰るため、ちょうど1年前に降り立った地点に戻ってきていたのです。飛行機の修理も終わり、喜ぶぼくに待っていたのは、王子さまとの別れでした。



9 ずっと一緒にいたいと言うぼくに、王子さまは「夜になったら星を見てね。僕の星はとっても小さいから目には見えないけど、その方がきっと全部の星が好きになるよ」と笑うのです。「ボクたち、いつまでも友達だよ」



10 約束どおりヘビに助けられ、王子さまは自分の星へと帰っていきました。ぼくは星を見上げながら、思い出すのです。忘れてしまっていた本当に大切なことに気づかせてくれた王子さまのことを...

